

平成23年度第2回木の文化を具体化する推進委員会 摘録

- ◆ 日時：平成24年3月27日（火） 15:00～17:00
- ◆ 場所：京都ガーデンパレス 「橘」
- ◆ 出席者：以下参照

区 分	名 前 (敬称略)	所 属
委員	青合 幹夫	京都府森林組合連合会 代表理事専務
	乾 康之助	京都木材協同組合 理事長
	岩井 吉彌	元京都大学大学院農学研究科 教授
	丘 眞奈美	京都ジャーナリズム歴史文化研究所代表
	神吉 紀世子	京都大学大学院工学研究科 教授
	中井 恵子	株式会社ケイ建築事務所 代表取締役社長
	野間 光輪子	日本ぐらし株式会社 代表取締役
	福村 乙佳	工務店 勤務
	堀井 誠史	京都府産木材認証制度運営協議会 会長
	吉川 哲雄	京の山杣人工房上京区モデル工房「木輪舎」 代表
	吉田 英治	京都市域産材供給協会 会長
事務局	山本担当部長	京都市農林振興室
	納谷課長	京都市農林振興室林業振興課
	鳥越担当課長	京都市農林振興室農政企画課
	宿院係長	京都市農林振興室林業振興課
	安藤係長	京都市農林振興室林業振興課
	井上担当	京都市農林振興室林業振興課

◆ 要旨

1 開会，挨拶，資料説明

- 挨拶，前回の主なご意見の確認

2 主な内容，意見等

- 地域産材ストック情報システムについて
 - ・ 京都木材協同組合内でもストック試験の検討を重ねてきている。
 - ・ 製材所が少ない問題はあるが，ストック情報システムへ京都木材協同組合は協力していく体制ができつつある。
 - ・ Webに掲載する趣旨は，どこに木材があるのかであり，現段階では（木材の）金額は掲載しない。ただし，今後取組が成熟してくることで掲載の可能性はある。
 - ・ 問い合わせを受ける（システムを利用してもらう）ための動線（広報）が大事。
 - ・ 大きな建築物ではなく，一般市民の方に京都の木を使ってもらえるような意識づくりのためのPRをもっとしていくべき。例えば，まちの木材屋さんの店頭にのぼりを立てる，CMなどのPR。
 - ・ 必要な時に必要な材を現場に届けてもらうことが大事。
 - ・ 今後は，ある程度の幅を持たせた「納期」表示も設定していく予定。
 - ・ 市内産木材を使用するメリットを設けて，そのPRが大事。
 - ・ 府の「緑の交付金」は，工務店から制度を紹介することが多いようである。
 - ・ 市の「みやこ杉木」供給事業を，まだまだ市民は知らない。
 - ・ 京の山柚人工房等，関係団体の活動情報もリンクしていった方が良い。
 - ・ システム立ち上げ後には，しばらく内容を検証する取組が必要ではないか。
 - ・ 今後の取り組み状況について，推進委員会へ適宜状況報告をいただき，委員からフォローアップをさせていただきたい。
- 京都三山の森づくりについて
 - ・ ナラ枯れやマツ枯れは，誰の目で見ても分かりやすいものであるので，木を使うことの大切さ（危機感）を持ってもらえるようにしていくべき。
 - ・ 森づくりと木材流通はつながっているので，市民の皆さまへご理解をいただけるようにどんどん広報を。
 - ・ マツ枯れやナラ枯れは，山と人の関係の変化によるところが大きいので，循環利用の大切さをPRしていくべき。
 - ・ ナラ枯れの薪は被害拡散にならないよう注意が必要。
 - ・ 伝統文化の森の活動は，どの状態（時代）の森林にしていくのかという目標が大事。

- ・ 市街地や山すその寺院から見た景観をどう思うのかというのが重要な要因ではないだろうか。それを持って、所有者と話し合っていく必要があるだろう。
- ・ 土地所有者関係の整理は、所管部署を超えた取組が必要ではないか。または、公共的に価値があるところであれば、一定の手続きを取ると、処理できるような仕組みを検討してほしい。
- ・ みどりプロジェクトは初めて聞いた。各種イベントでパネル展示する等、もっとPRをしていくべきだろう。委員としても手伝う。
- ・ 市民の意識で「芽」が出てきたことに対して、しっかりと育てていかないといけない。
- ・ 工事現場の囲い塀やゴミ箱等にプリントしてPRしてはどうか。

➤ 全体について

- ・ 木材にしても山づくりにしても、「PR」というものは重要であるので、継続的に検討されてはいかがか。